

Sun Blade X4-2B Windows オペレーティングシステムインストールガイド

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このドキュメントの使用方法	5
Sun Blade X4-2B モデル名	5
最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得	5
ドキュメントとフィードバック	6
このドキュメントについて	6
サポートとトレーニング	7
寄稿者	7
変更履歴	7
Windows OS のインストールについて	9
サポートされている OS のバージョンおよび最新情報	9
OS のインストールオプション	10
Oracle System Assistant	12
OS のインストールの準備	15
インストール方法のセットアップ	15
BIOS の設定	20
Windows OS のインストール	23
Windows をインストールする (Oracle System Assistant)	23
Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2008 SP2 をインストールする (手動)	26
Windows Server 2012 をインストールする (手動)	31
Windows Server をインストールする (PXE)	37
サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新	38
索引	43

このドキュメントの使用方法

このセクションでは、システムの最新のファームウェアとソフトウェア、ドキュメントとフィードバック、およびドキュメント変更履歴の入手方法を説明します。

- 5 ページの「Sun Blade X4-2B モデル名」
- 5 ページの「最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得」
- 6 ページの「ドキュメントとフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「サポートとトレーニング」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

Sun Blade X4-2B モデル名

名前は Sun Blade **X4-2B** サーバーモジュールを識別します。

- 1: アルファベットの X は x86 製品を示します。
- 2: 最初の数字 4 はサーバーの世代を示します。
- 3: 2 番目の数字 2 は、プロセッサの数を示します。
- 4: アルファベットの B は、製品がブレードサーバーであることを示します。

最新のファームウェアおよびソフトウェアの取得

Oracle x86 サーバー、サーバーモジュール (ブレード)、およびブレードシャーシのファームウェア、ドライバ、およびその他のハードウェア関連ソフトウェアは、定期的に更新されています。

最新バージョンは次の 3 つのうちいずれかの方法で入手できます。

- Oracle System Assistant - これは、Sun Oracle x86 サーバー用の、出荷時にインストール済みのオプションです。OSA は必要なすべてのツールとドライバを備えており、ほとんどのサーバーに取り付けられている USB ドライブに格納されています。
- My Oracle Support - <http://support.oracle.com>
- 物理メディアのリクエスト

詳細については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。

ドキュメントとフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Blade X4-2B サーバーモジュール	http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs
X4 サーバーシリーズのシステム管理	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle System Assistant	X4 シリーズサーバー向け Oracle x86 管理ガイド (http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs)
Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.1	http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs
Oracle Hardware Management Pack	http://www.oracle.com/goto/OHMP/docs
シャーシ Sun Blade 6000 モジュラーシステム	http://www.oracle.com/goto/SB6000/docs

このドキュメントについてのフィードバックは <http://www.oracle.com/goto/docfeedback> からお寄せください。

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で入手できます。情報はトピックに基づく形式 (オンラインヘルプと同様) で表示されるため、章、付録、およびセクション番号は含まれません。

特定のトピック (ハードウェア設置やプロダクトノートなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を生成するには、HTML ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

サポートとトレーニング

次の Web サイトに追加のリソースがあります。

- サポート:<http://support.oracle.com>
- トレーニング:<http://education.oracle.com>

寄稿者

主著者: Lisa Kuder、Ray Angelo、Mark McGothigan

寄稿者: Mike Ma、Qing-su Hu、Lu Wei、Cynthia Chin-Lee、Michael Tabor、Ralph Woodley

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2013 年 9 月初版。

Windows OS のインストールについて

このセクションでは、Windows OS のインストールの概要を示します。次のタスクの表をガイドとして使用してください。

手順	説明	リンク
1	サポートされている Windows OS のバージョンの一覧を確認し、サーバーソフトウェアおよびハードウェアに関する最新情報を取得する方法を学習します。	9 ページの「サポートされている OS のバージョンおよび最新情報」
2	単一のサーバーまたは複数のサーバーでの OS のインストールのオプションを確認します。	10 ページの「OS のインストールオプション」
3	必要な手順を実行してインストールの準備を整えます。	15 ページの「OS のインストールの準備」
4	OS をインストールします。	23 ページの「Windows OS のインストール」

サポートされている OS のバージョンおよび最新情報

このセクションでは、サポートされている Windows OS のバージョン、および最新のサーバー関連情報の取得方法について説明します：

- [9 ページの「サポートされている Windows オペレーティングシステム」](#)
- [10 ページの「プロダクトノート of 最新情報」](#)

サポートされている Windows オペレーティングシステム

Sun Blade X4-2B サーバーモジュールでサポートされる特定の Microsoft Windows Server のバージョンについては、次を参照してください。

<https://wikis.oracle.com/display/SystemsComm/Sun+Blade+Systems+Products#tab:Operating-Systems>

関連情報

- 10 ページの「プロダクトノートの最新情報」

プロダクトノートの最新情報

サーバーに関する最新情報は、『Sun Blade X4-2B プロダクトノート』で保持されています。『プロダクトノート』ドキュメントには、サーバーの利用可能なファームウェア更新およびハードウェアまたはソフトウェアの問題に関する詳細情報が記載されています。サーバー関連のドキュメントは、オンラインのサーバードキュメントライブラリで入手できます。

詳細は、<http://www.oracle.com/goto/X4-2B/docs> を参照してください。

OS のインストールオプション

OS を単一のサーバーにインストールするか、複数のサーバーにインストールするかを選択できます。このドキュメントの適用範囲は、単一のサーバーでの OS のインストールです。次の表に、これら 2 つのインストールオプションに関する情報を示します。

オプション	説明
複数のサーバー	次にある Enterprise Manager のページを参照してください。 http://www.oracle.com/technetwork/oem/ops-center/index.html
単一のサーバー	次のいずれかの方法を使用して、単一のサーバーに OS をインストールします。 <ul style="list-style-type: none">■ ローカル: OS のインストールは、サーバーでローカルに実行されます。このオプションは、物理的にラックにサーバーを設置し終えたばかりのときに便利です。Oracle System Assistant を使用するか、手動インストールを実行します。追加のハードウェアが必要です。■ リモート: OS のインストールはリモートの場所から実行されません。Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) リモートコンソールアプリケーションを使用して、Oracle System Assistant にアクセスするか、手動の OS インストールを実行します。 <p>注 - Oracle System Assistant を使用して、ローカルまたはリモートで、単一サーバー OS のインストールを実行します。</p>

単一サーバーに OS をインストールする方法と Oracle System Assistant の詳細については、次を参照してください。

- 11 ページの「単一サーバーへのインストール方法」

- 12 ページの「Oracle System Assistant」

単一サーバーへのインストール方法

Windows インストールメディアの提供方法を選択します。次の情報を使用し、ローカルかリモートのどちらの OS のインストールがニーズにもっとも適しているかを判断します。

メディアの配布方法	要件
ローカルでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビデオモニター ■ USB キーボードとマウス ■ USB CD/DVD ドライブ ■ Windows 配布メディア <p>詳細については、12 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。</p>
リモートでの補助付き OS インストール - Oracle System Assistant を使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーション ■ リダイレクト CD/DVD ドライブまたは ISO イメージファイル ■ Windows 配布メディア <p>詳細については、12 ページの「補助付き OS インストール」を参照してください。</p>
CD/DVD ドライブを使用したローカルでの手動 OS インストール - サーバーに接続された物理 CD/DVD ドライブを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビデオモニター ■ USB キーボードとマウス ■ USB CD/DVD ドライブ ■ Windows 配布メディア <p>詳細については、12 ページの「手動による OS インストール」を参照してください。</p>
CD/DVD ドライブまたは CD/DVD ISO イメージを使用したリモートからの手動 OS インストール - Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションを実行しているリモートシステム上でリダイレクトされた物理 CD/DVD ドライブを使用します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ ブラウザが実行されているリモートシステム ■ CD/DVD ドライブまたは ISO イメージ ■ Windows 配布メディア ■ サーバー管理ポートに対するネットワークアクセス <p>詳細については、12 ページの「手動による OS インストール」を参照してください。</p>
ネットワーク PXE インストール - Windows 展開サービス (WDS) サーバー上のカスタマイズされた Windows Imaging Format (WIM) イメージを使用します。	<p>WDS を実行しているサーバーとそのサーバー用にカスタマイズされた WIM イメージ。12 ページの「Windows 展開サービス OS のインストール」を参照してください。</p>

補助付き OS インストール

これは、サポートされている OS をサーバーにインストールするためのもっとも簡単な方法です。この方法では、Oracle System Assistant を使用します。ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブまたは CD/DVD イメージで Windows OS のインストールメディアを提供すると、アプリケーションがインストールプロセスを開始します。Oracle System Assistant がサーバーにインストールされている必要があります。

Oracle System Assistant の詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

手動による OS インストール

この方法では、OS のインストールに Oracle System Assistant を使用しません。代わりに、ローカルまたはリモートの CD/DVD ドライブ、USB デバイス、CD/DVD イメージのいずれかで Windows 配布メディアを提供します。必要なツールおよびドライバも提供する必要があります。サーバー用のツールとドライバは、My Oracle Support サイトからサーバー固有および OS 固有のパッケージとして入手できます。OS をインストールするには、配布メディアのインストールウィザードを使用します。

Windows 展開サービス OS のインストール

展開サーバー環境から Windows をインストールできます。上級ユーザーは、Windows 展開サービス (WDS) サーバー上の特定のサーバー用にカスタマイズされた Windows インストールイメージ (WIM) を作成できます。こうしたインストールイメージファイルを作成しておく、ネットワークカードからサーバーをブートし、WDS システムからそのイメージを選択して展開できます。

WDS の詳細については、次を参照してください。

<http://msdn.microsoft.com/en-us/library/aa967394.aspx>

関連情報

- 12 ページの「Oracle System Assistant」

Oracle System Assistant

Oracle System Assistant は、システムに組み込まれた USB ストレージデバイス上にサーバーの一体部分として提供され、スタンバイ電源を供給すればすぐに使用できます。この埋め込みのストレージデバイスには、サポートされるオペレーティングシステムおよびハードウェアを自分で選択してサーバーの使用を開始するために必要なものがすべて含まれています。オペレーティングシステムのインストールメディアを用意すれば、Oracle System Assistant でほかのすべてのものが提供されます。Oracle System Assistant のコンポーネントは次のとおりです：

- 起動と保守のプロビジョニングタスク (OS のインストールタスクを含む) へのユーザーインタフェースアクセス
- オペレーティングシステムが使用するドライバとツール
- サーバー固有のファームウェア
- Hardware Management Pack
- サーバー関連ドキュメント

Oracle System Assistant の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [13 ページの「Oracle System Assistant の OS のインストールタスク」](#)
- [13 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の OS のインストールタスク

Oracle System Assistant の OS のインストールタスクは、サポートされている OS の補助付きインストールを提供します。OS インストールメディアを提供すると、Oracle System Assistant がインストールプロセスを開始します。

補助付き OS インストールは、サポートされているすべての Windows オペレーティングシステムで使用できます。OS がインストールされると、Oracle System Assistant を使用して、OS ドライバに加えてすべてのコンポーネント (ファームウェア、ツール、ドライバ、その他の関連ソフトウェア) も更新できます。

関連情報

- [13 ページの「Oracle System Assistant の取得」](#)

Oracle System Assistant の取得

ほとんどの場合、Oracle System Assistant は、サーバーにすでにインストールされています。

- Oracle System Assistant がすでにインストールされており、最新バージョンが必要な場合は、Get Updates タスクを使用して Oracle System Assistant を更新できます。
- サーバーが Oracle System Assistant をサポートしているが、Oracle System Assistant がインストールされていない場合は、Oracle の販売代理店までお問い合わせください。

関連情報

- 『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>)

OSのインストールの準備

OSをインストールする前に、インストール方法を設定する必要があります。このセクションでは、OSのインストールの準備手順について説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	説明	リンク
1	OSインストールのタスクの表をすでに確認している必要があります。	9ページの「Windows OSのインストールについて」
2	選択したインストール方法に基づいてインストールのセットアップを行います。	<ul style="list-style-type: none">ローカルインストールの場合:15ページの「ローカルインストールのセットアップ」リモートの場合:16ページの「リモートインストールのセットアップ」
3	最適なデフォルト値をロードし、BIOSモードを選択して、BIOSを準備します。	20ページの「BIOSの設定」
4	準備のための手順が完了したら、OSをインストールします。	23ページの「Windows OSのインストール」

インストール方法のセットアップ

- 15ページの「ローカルインストールのセットアップ」
- 16ページの「リモートインストールのセットアップ」

▼ ローカルインストールのセットアップ

OSのローカルインストールはサーバーで実行されます。ローカルインストール方法として推奨される手順は、Oracle System AssistantのOSのインストールタスクを使用することです。この手順を使用して、ローカルのOracle System Assistantの補助付きインストールまたはローカルの手動(補助なし)インストールを設定します。

注-OSのローカルインストールの場合、追加のハードウェアが必要で、サーバーのWebアクセスが推奨されます。

- 始める前に
- 『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールをすでに実行しているはずです。
 - 次の項目が必要です。
 - 15ピン(DB-15)コネクタ機能を備えたビデオモニター
 - USBキーボードとマウス
 - USBデバイス(CD/DVDドライブまたはサムドライブ)
 - マルチポートドングルケーブル
 - サーバーに含まれる更新が確実に最新のものになるようにするために、サーバーのWebアクセスが推奨されます。
- 1 サーバーがスタンバイ電力モードであることを確認します。
 - 2 サーバーモジュールの前面にあるユニバーサルコネクタポート(UCP)にマルチポートドングルを接続します。
 - 3 ビデオモニターをマルチポートドングルのビデオコネクタに接続します。
 - 4 キーボードおよびマウスをサーバーの前面にあるUSBコネクタのいずれかに(またはマルチポートドングルのUSBコネクタのいずれかに)接続します。
 - 5 CD/DVDドライブをサーバーの前面にあるほかのUSBコネクタに(またはマルチポートドングルのUSBコネクタのいずれかに)接続します。

次の手順 [20 ページの「BIOS の設定」](#)

▼ リモートインストールのセットアップ

リモート OS インストールは、Oracle ILOM リモートコンソールアプリケーションおよびリダイレクトされた CD/DVD ドライブまたは CD ISO イメージを使用して実行されます。リモートインストールとして推奨される手順は、Oracle System Assistant の補助付き OS インストールタスクを使用する手順です。この手順を使用して、リモートの Oracle System Assistant の補助付きインストールまたはリモートの手動(補助なし)インストールを設定します。

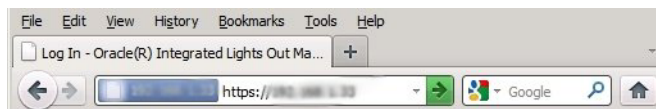
注- CD-ROM または CD-ROM イメージのオプションを使用して OS をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするため、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールの所要時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。また、このインストール方法では、一時的なネットワークエラーにより問題が生じるリスクが高くなります。

始める前に 次の要件を満たしている必要があります。

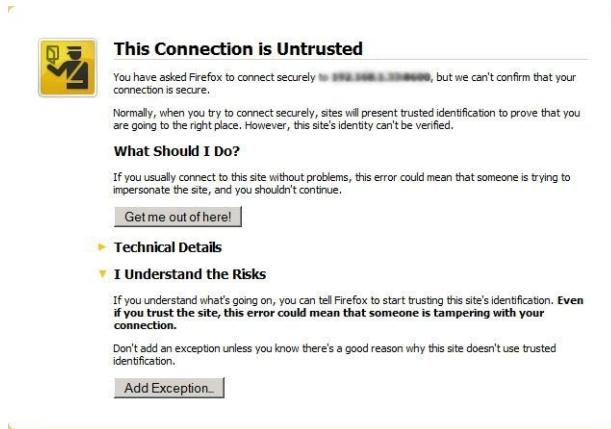
- 『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の説明に従って、サーバーのインストールをすでに実行しているはずですが。
- Oracle ILOM リモートコンソールシステムが、Solaris、Linux、または Windows 上で実行しています。
- Sun サーバーの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークに Oracle ILOM リモートコンソールシステムが接続されています。
- Java Runtime Environment (JRE) 1.5 がインストールされています。
- Oracle ILOM リモートコンソールシステムが Solaris を実行している場合は、Oracle ILOM リモートコンソールが CD/DVD-ROM ドライブにアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- Oracle ILOM リモートコンソールシステムが Windows を実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティー機能を無効にします。
- サーバースerviceプロセッサ (SP) が、使用しているサーバーの Oracle ILOM ドキュメントの手順に従ってセットアップ済みです。
- Oracle ILOM にアクセスするための SP IP アドレスがあります。
- サーバーに最新の更新が含まれるようにするために、Web アクセスが必要です。

注- この手順に示されているスクリーンショットの一部は、表示される画面とは異なる場合があります。

- 1 **Oracle ILOM** にアクセスするには、サービスプロセッサの IP アドレスをリモートコンソールシステム上のブラウザに入力します。



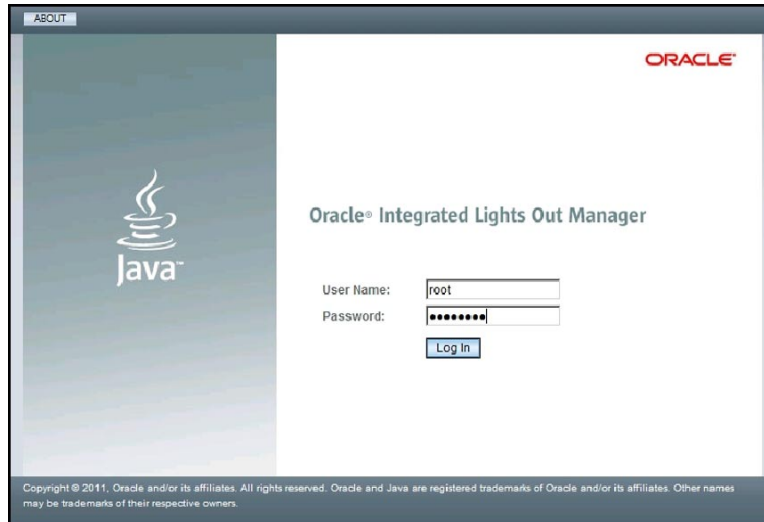
「Security Alert」ダイアログボックスが表示されます。



2 「I Understand the Risks」リンクをクリックします。

3 「Add Exception」をクリックします。

Oracle ILOM のログイン画面が表示されます。



- 4 管理権限を持つユーザーとして **Oracle ILOM** にログインします。
Oracle ILOM の「System Summary」画面が表示されます。

Summary
View system summary information. You may also change power state and view system status and fault information.

General Information	
Model	-
Serial Number	-
System Type	-
System Identifier	-
System Firmware Version	-
Primary Operating System	-
Host Primary MAC Address	-
Blade Slot	-
ILOM Address	-
ILOM MAC Address	-

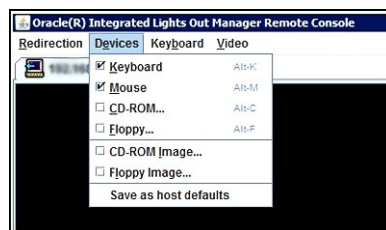
Actions	
Power State	<input checked="" type="checkbox"/> ON <input type="button" value="Turn Off"/>
Locator Indicator	<input checked="" type="checkbox"/> OFF <input type="button" value="Turn On"/>
Oracle System Assistant Version:	<input type="button" value="Launch"/>
System Firmware Update	<input type="button" value="Update"/>
Remote Console	<input type="button" value="Launch"/>

Status			
Overall Status:		<input checked="" type="checkbox"/> Service Required	Total Problem Count: 2
Subsystem	Status	Details	Inventory
Processors	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Processor Architecture: x86 64-bit Processor Summary: 2 Intel Xeon Processor E5 Series	Processors (Installed / Maximum): 2 / 2
Memory	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Installed RAM Size: 96 GB	DIMMs (Installed / Maximum): 24 / 24
Power	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Permitted Power Consumption: 403 watts Actual Power Consumption: 69 watts	PSUs (Installed / Maximum): 2 / 2
Cooling	<input checked="" type="checkbox"/> OK	Inlet Air Temperature: 22 °C Exhaust Air Temperature: 29 °C	Fans (Installed / Maximum): 12 / 12

- 5 「Remote Console Launch」ボタンをクリックします。
jnlpgenerator.jnlp ファイルのダイアログボックスが表示されます。



- 6 「Open」をクリックします。
「Oracle ILOM Remote Console」画面が表示されます。



- 7 「Devices」メニューから、選択した配布方法に従って1つのCD項目を選択します。
- **CD-ROM リモート。** Oracle ILOM リモートコンソールシステムに接続された CD/DVD-ROM ドライブからオペレーティングシステムソフトウェア CD/DVD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。

- **CD-ROM** イメージ。Oracle ILOM リモートコンソールシステム上にあるオペレーティングシステムソフトウェアの ISO イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image」を選択します。

次の手順 20 ページの「[BIOS の設定](#)」

BIOS の設定

オペレーティングシステムをインストールする前に、実行する予定のインストールの種類をサポートするように、BIOS 設定が構成されていることを確認すべきです。次のトピックでは、インストールをサポートするように BIOS を構成する方法について具体的に説明しています。

- 20 ページの「[BIOS の最適なデフォルト設定のロード](#)」
- 21 ページの「[BIOS モードの設定](#)」

▼ BIOS の最適なデフォルト設定のロード



注意 - この手順では、BIOS の設定をデフォルト値にリセットし、以前にカスタマイズした設定をすべて上書きします。BIOS 設定は、Oracle ILOM、Oracle Hardware Management Pack、または Oracle System Assistant を使用してバックアップできます。

BIOS 設定ユーティリティーには、工場から出荷されたままのサーバーにとって最適な BIOS 設定をロードするためのオプションが含まれています。この手順を新しく設置されたサーバーで実行して、BIOS が最適なデフォルト値に設定されるようにします。

- 始める前に
- サーバーにはストレージドライブが適切に取り付けられています。
 - サーバーへのコンソール接続が確立されています。
- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
 - 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して BIOS 設定ユーティリティーにアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
 - 3 出荷時のデフォルト値が設定されるようにするには、**F9** を押します。
 - 4 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティーを終了するには、**F10** を押します。

- 5 サーバーをリブートします。

次の手順 21 ページの「[BIOS モードの設定](#)」

▼ BIOS モードの設定

BIOS ファームウェアは、レガシー BIOS と UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) の両方をサポートしています。Sun Blade X4-2B UEFI ブートモードでサポートされている Windows のすべてのバージョン。OS のインストールを実行する前に、レガシーモードと UEFI モードのどちらかに BIOS を設定できます。デフォルトの設定はレガシーです。

- 1 サーバーの電源を入れます。
コンソールに POST メッセージが表示されます。
- 2 メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、**F2** を押して **BIOS 設定ユーティリティー** にアクセスします。
BIOS 設定ユーティリティーのメイン画面が表示されます。
- 3 **BIOS 設定ユーティリティー** で、左右の矢印キーを使用して「**Boot**」画面に移動します。
「Boot Menu」画面が表示されます。
- 4 下矢印キーを使用して、「**UEFI/BIOS Boot Mode**」フィールドを選択します。
- 5 **Enter** キーを押し、上下の矢印キーを使用して「**Legacy BIOS**」オプションを選択します。
- 6 変更を保存して **BIOS 設定ユーティリティー** を終了するには、**F10** を押します。
- 7 サーバーをリブートします。

次の手順 23 ページの「[Windows OS のインストール](#)」

Windows OS のインストール

このセクションでは、OS のインストールプロセスについて説明します。次のタスク表をガイドとして使用してください。

手順	説明	リンク
1	「OS のインストール準備」タスク表の手順をあらかじめ実行しておく必要があります。	15 ページの「OS のインストールの準備」
2	選択した方法で Windows をインストールします。	<ul style="list-style-type: none">■ 23 ページの「Windows をインストールする (Oracle System Assistant)」■ 26 ページの「Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2008 SP2 をインストールする (手動)」■ 31 ページの「Windows Server 2012 をインストールする (手動)」■ 37 ページの「Windows Server をインストールする (PXE)」
3	サーバーのシステムツール、ドライバ、追加ソフトウェアを更新します。	38 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

▼ Windows をインストールする (Oracle System Assistant)

Oracle System Assistant アプリケーションの OS のインストールタスクは、サポートされている OS を Sun Blade X4-2B にインストールするためのもっとも簡単な方法です。

Oracle System Assistant の詳細については、『Oracle X4 シリーズサーバー管理ガイド』 (<http://www.oracle.com/goto/x86AdminDiag/docs>) を参照してください。

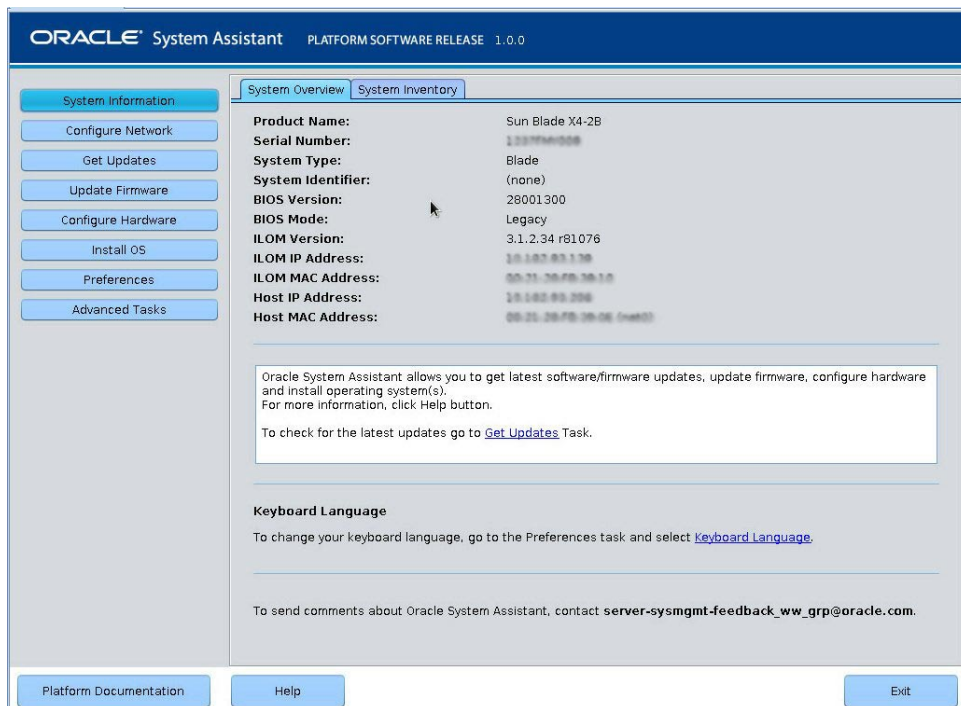
- 始める前に
- OS インストールタスク表を参照します。23 ページの「Windows OS のインストール」を参照してください。
 - LSI Logic 統合 RAID コントローラの設定ユーティリティを使用して、ブートドライブを RAID 1 (ミラーリング) 構成にするには、Ctrl+H (またはサーバー POST シーケンス中の場合は、コマンド行で Ctrl+C) を押します。Windows オペ

レーティングシステムをインストールする前にブートディスクを RAID 構成にする必要があります。詳細については、『[Sun Blade X4-2B 設置ガイド](#)』を参照してください。

- Windows OS インストール用配布メディアを取得します。
 - ローカルインストールの場合は、Microsoft Windows インストールメディアを接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入できるように準備しておきます。
 - リモートインストールの場合:
 - Microsoft Windows インストールメディアをシステムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。「Device」メニューで「CD-ROM」が選択されていることを確認します。
 - Windows イメージを使用する場合は、ISO イメージが入手可能であることを確認します。「Device」メニューで「CD-ROM Image」が選択されていることを確認します。
- 1 サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
 - 2 サーバーをブートし、ビデオモニターまたはリモートコンソール画面を注視して、F9 キーを押して **Oracle System Assistant** を起動するように求めるプロンプトが表示されるのを待ちます。



- 3 プロンプトが表示されたら **F9** キーを押します。
Oracle System Assistant System の「Overview」メイン画面が表示されます。



- 4 Oracle System Assistant を更新するには、「Get Updates」をクリックします。
- 5 新規ソフトウェアリリースをチェックするには、「Check for Updates」ボタンをクリックします。
更新が利用可能な場合は、その更新の readme ファイルが表示されます。
- 6 更新を取得するには、「Download and Apply Updates」ボタンをクリックします。
「Get Updates Sign-In」画面が表示されます。
- 7 MOS 資格を指定します。
- 8 MOS ユーザー名とパスワードを入力します。
サーバーは更新をダウンロードし、サーバーのリポートを尋ねるポップアップを表示します。
- 9 「OK」を選択します。
サーバーがリポートし、Oracle System Assistant を再起動します。

- 10 「Install OS」 ボタンをクリックします。
「Install OS」 画面が表示されます。
- 11 インストールしようとしている OS のバージョンがサポートされていることを確認するために、「View supported operating systems」 ウィンドウに表示されたリストを確認します。
- 12 「Select your install media location」 セクションで、OS 配布メディアの場所を指定します。
CD/DVD または仮想ドライブを選択できます。
- 13 プロンプトに従ってインストールを完了します。
インストールプロセスでは、サーバーが1回以上リブートします。

次の手順 [38 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)

▼ Windows Server 2008 R2 および Windows Server 2008 SP2 をインストールする (手動)

このセクションでは、Oracle System Assistant を使用せずに、OS をインストールする方法について説明します。OS はローカルまたはリモートのどちらかの方法でインストールできます。



注意 - データ損失。OS のインストールを行うとブートディスクがフォーマットされるため、ディスク上の既存のデータは、インストール済みの OS も含め、すべて消去されます。

- 始める前に
- 選択した OS インストール方法 (ローカルまたはリモート) に合わせてサーバーを設定します。15 ページの「ローカルインストールのセットアップ」または 16 ページの「リモートインストールのセットアップ」を参照してください。
 - 必要に応じて、サーバーのハードドライブ上にボリュームを作成し、ブートデバイスを設定します。『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』を参照してください。
 - Windows OS インストール用配布メディアを取得します。
 - ローカルインストールの場合: プロンプトが表示されたら、Microsoft Windows Server 2008 R2 のインストールメディアを接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - リモートインストールの場合: Windows Server インストールメディアを Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。「Device」メニューで「CD-ROM」が選択されていることを確認してください。

- Windows イメージを使用する場合: Windows Server インストール用 ISO イメージがリモートシステムから入手可能であることを確認します。「Device」メニューで「CD-ROM Image」が選択されていることを確認してください。

- 1 サーバーの電源を入れ直します。

Windows リモートまたは Windows イメージの方法を使用している場合は、Oracle ILOM からサーバーの電源を入れ直すことができます。

BIOS POST プロセスが開始されます。

- 2 画面を注視して、BIOS メニューが表示されるまで待ちます。

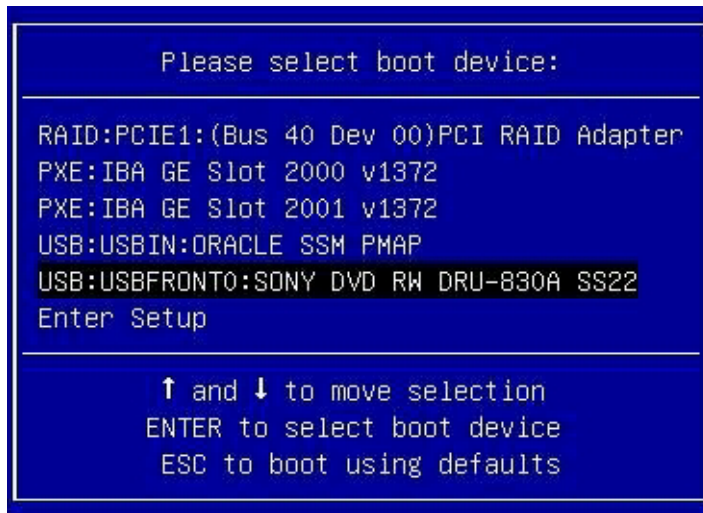
注 - BIOS POST メッセージ (BIOS メニューオプションリストも含む) はすぐに消えてしまいます。メッセージを見逃してしまった場合は、サーバーの電源を入れ直し、ブート中に F8 キーを押したままにして、BBS ポップアップメニューが表示されるのを待ちます。



- 3 BIOS メニューオプションリストが表示されたら、F8 キーを押して BBS ポップアップメニューを開きます。

BIOS POST プロセスが完了すると、BBS ポップアップメニューが表示されます。BBS ポップアップメニューでブートデバイスを選択できます。

BBS ポップアップメニュー画面の例:



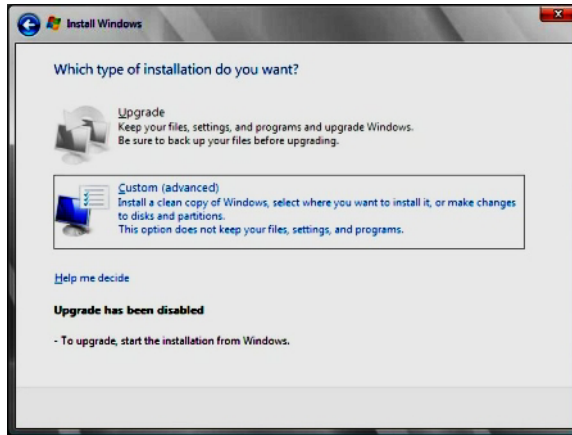
- 4 インストール方法として**Windows** ローカルを選択した場合は、接続された DVD ドライブに**Windows** メディア DVD を挿入します。
- 5 次のいずれかを実行します。
 - **Windows** ローカルを使用する場合は、「**Boot Device**」メニューから「**CD/DVD**」を選択して **Enter** キーを押します。
 - **Windows** リモートまたは**Windows** イメージを使用する場合は、「**Boot Device**」メニューから仮想 **CD/DVD** を選択して **Enter** キーを押します。

注 - Oracle System Assistant USB のブートエントリが OS をインストールするハードディスクの下にあることを確認してください。

「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

- 6 インストールウィザードの手順を進めて、「インストールの種類」が表示されたら「カスタム(詳細)」をクリックします。

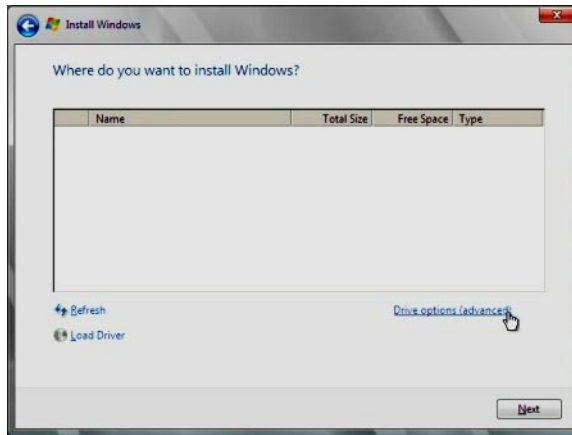


- 7 「Windows のインストール場所を選択してください」画面で:

- Windows Server 2008 SP2 用の大容量ストレージドライバを追加する場合は、「ドライバの読み込み」をクリックし、大容量ストレージデバイスドライバの格納場所 (CD/DVD または USB フラッシュドライブ) に移動します。ドライバ情報ファイル (.inf) を選択します。

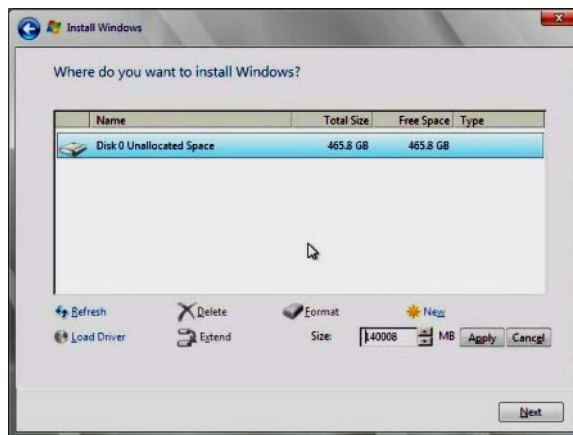
注 - Windows Server 2008 SP2 の場合、接続された CD/DVD または Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを介してドライバにアクセスする必要があります。ドライバにアクセスできない場合、次の図に示すように、ディスクが表示されなくなります。

- Windows のデフォルトのパーティション設定を選択する場合は、「次へ」をクリックします。手順9に進みます。
- Windows のデフォルトのパーティション設定をオーバーライドする場合は、「ドライブオプション(詳細)」をクリックし、次の手順に進みます。



注意-データ損失。既存のパーティションをフォーマットしたりパーティションを作成し直したりすると、そのパーティションにあるすべてのデータが消去されます。

- 8 詳細ドライブオプションの画面で:
 - a. 「削除」をクリックして既存のパーティションを削除します。
 - b. 「新規作成」をクリックして新しいパーティションを作成します。
 - c. 必要に応じてサイズ設定を変更し、「適用」をクリックします。
 - d. 「次へ」をクリックします。



Windows のインストールが開始されます。インストールプロセス中、サーバーは複数回リブートします。

インストールプロセスが完了すると、Windows が起動し、ユーザーパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。

- 9 「OK」をクリックして、管理者パスワードを割り当てます。

注-パスワードは8文字で、数字が1文字、大文字が1文字含まれていなければなりません。詳細は、アカウント作成ページのアクセシビリティのリンクをクリックしてください。

管理者アカウントにパスワードを割り当てると、Windows Server 2008 R2 のデスクトップが表示されます。

次の手順 [38 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」](#)。

▼ Windows Server 2012 をインストールする (手動)

このセクションでは、Oracle System Assistant を使用せずに、OS をインストールする方法について説明します。OS はローカルまたはリモートのどちらかの方法でインストールできます。



注意-データ損失。OS のインストールを行うとブートディスクがフォーマットされるため、ディスク上の既存のデータは、インストール済みの OS も含め、すべて消去されます。

- 始める前に
- 選択した OS インストール方法 (ローカルまたはリモート) に合わせてサーバーを設定します。15 ページの「ローカルインストールのセットアップ」または 16 ページの「リモートインストールのセットアップ」を参照してください。
 - 必要に応じて、サーバーのハードドライブ上にボリュームを作成し、ブートデバイを設定します。『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』を参照してください。
 - Windows OS インストール用配布メディアを取得します。
 - ローカルインストールの場合: プロンプトが表示されたら、Microsoft Windows Server 2012 のインストールメディアを接続された物理 CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。
 - リモートインストールの場合: Windows Server インストールメディアを Oracle ILOM リモートコンソールシステムの CD/DVD-ROM ドライブに挿入します。「Device」メニューで「CD-ROM」が選択されていることを確認してください。

- Windows イメージを使用する場合: Windows Server インストール用 ISO イメージがリモートシステムから入手可能であることを確認します。「Device」メニューで「CD-ROM Image」が選択されていることを確認してください。

1 サーバーの電源を入れ直します。

Windows リモートまたは Windows イメージを使用する場合は、ILOM 経由でこれを実行できます。

BIOS POST プロセスが開始されます。

2 画面を注視して、BIOS メニューが表示されるまで待ちます。

注 - BIOS POST メッセージ (BIOS メニューオプションリストも含む) はすぐに消えてしまいます。メッセージを見逃してしまった場合は、サーバーの電源を入れ直し、ブート中に F8 キーを押したままにして、BBS ポップアップメニューが表示されるのを待ちます。



3 BIOS メニューオプションリストが表示されたら、F8 キーを押して BBS ポップアップメニューを開きます。

BIOS POST プロセスが完了すると、BBS ポップアップメニューが表示されます。BBS ポップアップメニューでブートデバイスを選択できます。

BBS ポップアップメニュー画面の例:



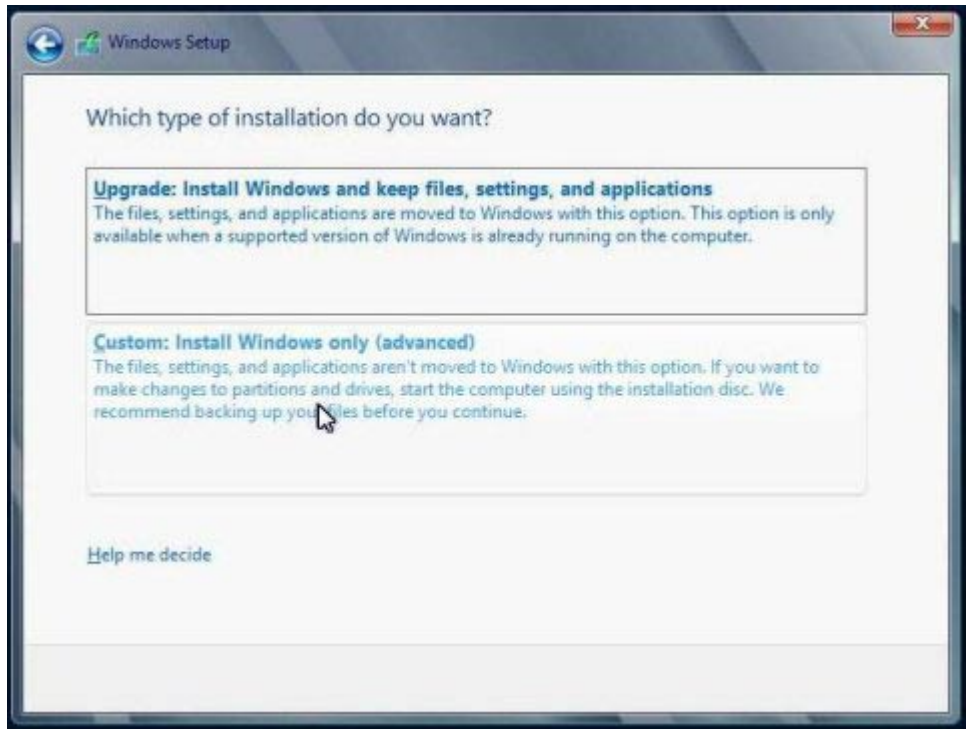
- 4 インストール方法として **Windows** ローカルを選択した場合は、接続された **DVD** ドライブに **Windows** メディア **DVD** を挿入します。
- 5 次のいずれかを実行します。
 - **Windows** ローカルを使用する場合は、「**Boot Device**」メニューから「**CD/DVD**」を選択して **Enter** キーを押します。
 - **Windows** リモートまたは **Windows** イメージを使用する場合は、「**Boot Device**」メニューから仮想 **CD/DVD** を選択して **Enter** キーを押します。

注 - Oracle System Assistant USB のブートエントリが OS をインストールするハードディスクの下にあることを確認してください。

「Press any key to boot from CD」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。

Windows インストールウィザードが起動します。

- 6 インストールウィザードの手順を進めて、「インストールの種類」が表示されたら「カスタム(詳細)」をクリックします。



- 7 「Windows のインストール場所を選択してください」画面で:

- Windows Server 2012 用の大容量ストレージドライバを追加する場合は、「ドライブの読み込み」をクリックし、大容量ストレージデバイスドライバの格納場所 (CD/DVD または USB フラッシュドライブ) に移動します。ドライブ情報ファイル (.inf) を選択します。

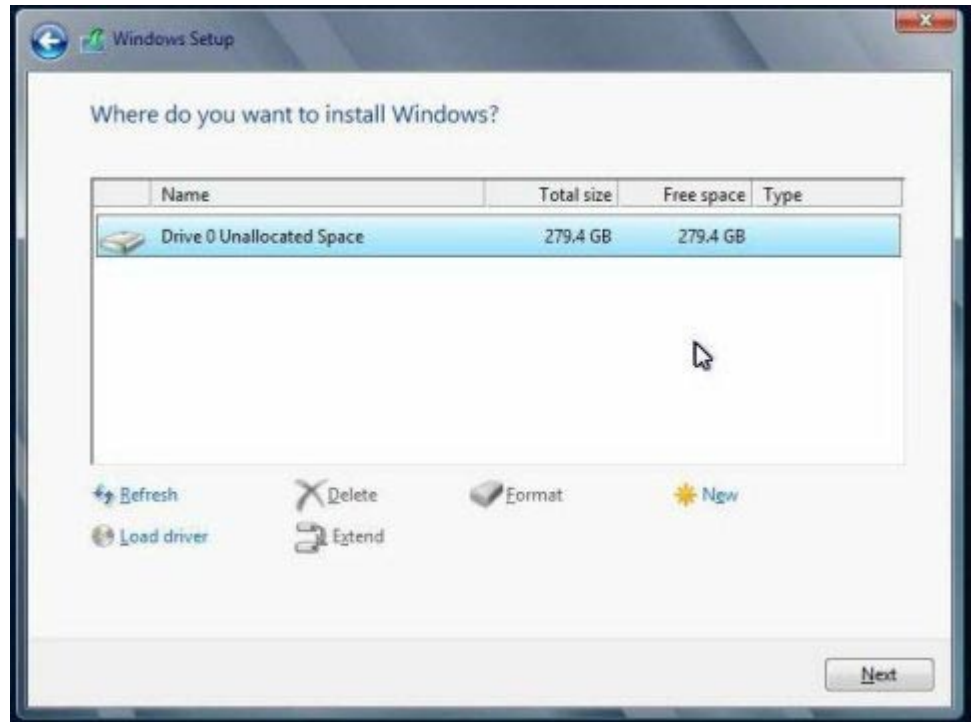
注 - Windows Server 2012 の場合、接続された CD/DVD または Oracle System Assistant USB フラッシュドライブを介してドライブにアクセスできる必要があります。ドライブにアクセスできない場合、次の図に示すように、ディスクが表示されなくなります。

- Windows のデフォルトのパーティション設定を選択する場合は、「次へ」をクリックします。手順9に進みます。
- Windows のデフォルトのパーティション設定をオーバーライドする場合は、「ドライブオプション(詳細)」をクリックし、次の手順に進みます。

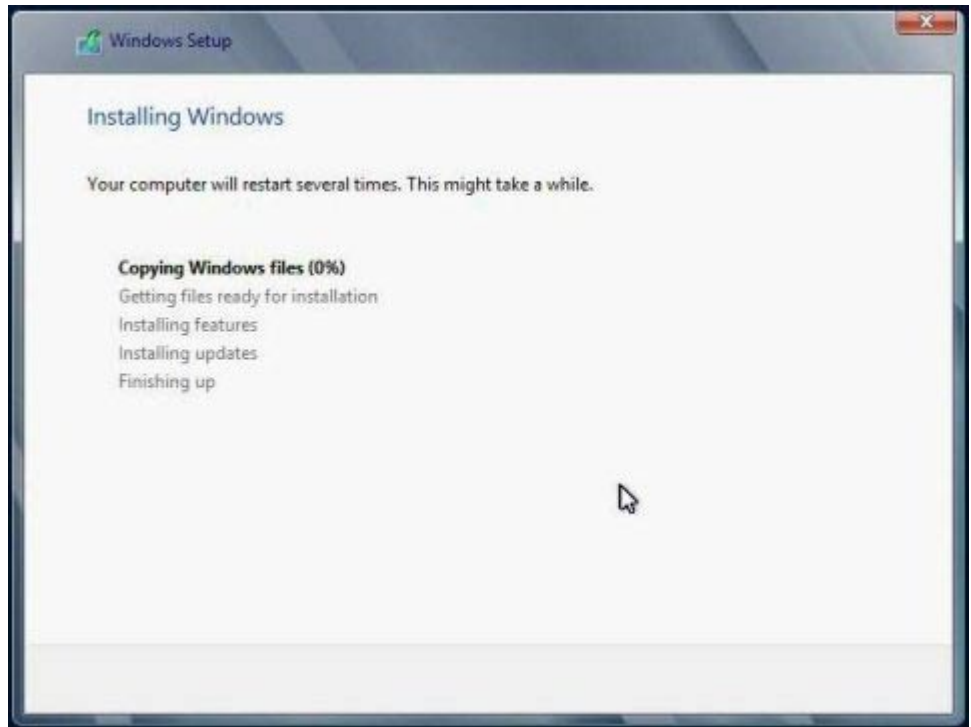


注意-データ損失。既存のパーティションをフォーマットしたりパーティションを作成し直したりすると、そのパーティションにあるすべてのデータが消去されます。

- 8 詳細ドライブオプションの画面で:
 - a. 「削除」をクリックして既存のパーティションを削除します。
 - b. 「新規作成」をクリックして新しいパーティションを作成します。
 - c. 必要に応じてサイズ設定を変更し、「適用」をクリックします。
 - d. 「次へ」をクリックします。

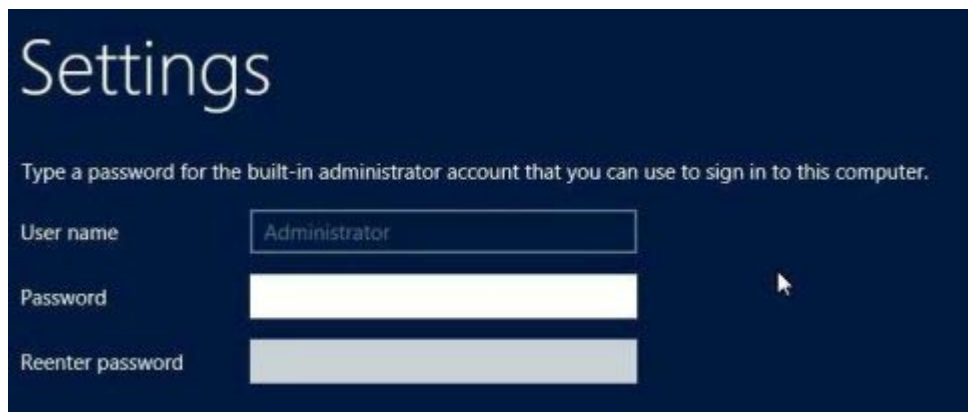


Windows のインストールが開始されます。インストールプロセス中、サーバーは複数回リブートします。



インストールプロセスが完了すると、Windows が起動し、管理者パスワードの設定を要求するプロンプトが表示されます。

- 9 管理者パスワードを割り当てます。



注-パスワードは8文字で、数字が1文字、大文字が1文字含まれていなければなりません。詳細は、アカウント作成ページのアクセシビリティのリンクをクリックしてください。

管理者アカウントにパスワードを割り当てると、Windows Server 2012 のデスクトップが表示されます。

参照 38 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」。

▼ Windows Server をインストールする (PXE)

次の手順は、Windows Server 2008 SP2、Windows Server 2008 R2、および Windows 2012 に適用されます。

注-電源投入メッセージとプロンプトは高速で表示されるため、すぐに画面から消えてしまうことがあります。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

始める前に PXE を使用して Windows 2012 を配備するには、まず Windows 2012 サーバーに Windows Deployment Service (WDS) をインストールする必要があります。

- 1 次のいずれかを使用して、サーバーをリセットするか電源を投入します。
 - Oracle ILOM Web インタフェースの「Remote Power Control」タブで、「Reset」を選択します。
 - ローカルサーバーで、フロントパネルにある電源ボタンを約1秒間押してサーバーの電源を切ってから、もう一度電源ボタンを押してサーバーに電源を入れます。
- 2 **F8** キーを押して、一時ブートデバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」画面が表示されます。
- 3 「Please Select Boot Device」画面で、適切な PXE インストールブートデバイスを選択し、**Enter** キーを押します。

注-PXE インストールブートデバイスは、ネットワークインストールサーバーとの通信に使用される物理ネットワークポートです。

「Boot Agent」画面が表示されます。

- 4 「Boot Agent」画面で、**F12** キーを押してネットワークサービスをブートします。

- 5 通常の **Windows Server WDS** ネットワークインストールを続行します。
詳細は、Microsoft の Windows 展開サービスに関する製品ドキュメントを参照してください。
- 6 インストールが完了したら、必要に応じてインストール後のタスクを実行します。

次の手順 38 ページの「サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新」

サーバーシステムツールのインストールおよびドライバの更新

次の各手順では、InstallPack アプリケーションを使用してサーバーシステムツールのインストールおよびシステムドライバのアップデートの方法を説明します (InstallPack アプリケーションは、Oracle System Assistant ソフトウェアおよびダウンロードしたサーバー固有のソフトウェアパッケージと一緒に入手可能です)。

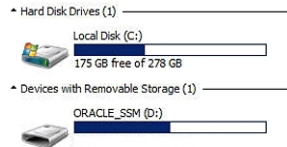
- 38 ページの「サーバーシステムツールのインストール」
- 40 ページの「システムドライバを更新する」

▼ サーバーシステムツールのインストール

- 1 次のいずれかを実行します。
 - システムに **Oracle System Assistant** がない場合:
 - a. **My Oracle Support** サイトから最新のサーバーシステムツールおよびドライバパッケージをダウンロードします。
詳細については、『Sun Blade X4-2B 設置ガイド』の「サーバーファームウェアおよびソフトウェアアップデートの入手」を参照してください。
 - b. ダウンロードしたツールおよびドライバパッケージをサーバーに解凍します。
各種サーバーシステムツールは次の各ディレクトリに格納されます—ここで *version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。
 - Windows Install Pack MSM: `Windows/version/Tools/LSI-MSM`
 - NIC Teaming for Windows: `Windows/version/Tools/Intel-NIC-PROSet`
 - Oracle Hardware Management Pack:
`Windows/version/Tools/Hardware-Management-Pack`

- システムに **Oracle System Assistant** がある場合:
 - a. OS 内でファイルブラウザを開き、**Oracle System Assistant** の USB デバイスに移動します。

USB デバイスの名前: ORACLE_SSM



- b. **ORACLE_SSM** USB ドライブをダブルクリックします。

サーバーのシステムツールは、次のディレクトリに格納されています。

- Windows Install Pack MSM: `Windows/version/Tools/LSI-MSM`
- NIC Teaming for Windows: `Windows/version/Tools/Intel-NIC-PROSet`
- Oracle Hardware Management Pack:
`Windows/version/Tools/Hardware-Management-Pack`

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

- 2 サーバーシステムツールをインストールするには:

- **Oracle Hardware Management Pack** については、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=ohmp> にあるインストールドキュメントを参照してください。
- **Windows InstallPack of MSM** および **NIC Teaming for Windows** については、次の手順に進んでください。

- 3 **installer** フォルダに移動します。

`drive:\ORACLE_SSM\Windows\version\installer.`

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

- 4 **InstallPack.hta** ファイルをダブルクリックします。

InstallPack アプリケーションが表示されます。

- 5 サーバーシステムツールをインストールするには、「カスタム」が選択されていることを確認して、「次へ」をクリックします。

「カスタム」設定で、インストールするツールを選択できます。

- b. ダウンロードしたツールおよびドライバのパッケージをサーバー上に解凍します。

サーバーシステムドライバは、次のディレクトリに格納されます。

Windows*version*\Drivers

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

- 2 **installer** フォルダに移動します。

drive:\ORACLE_SSM\Windows*version*\installer.

ここで、*version* はインストールされた Windows OS のバージョンです。

- 3 **InstallPack.hta** ファイルをダブルクリックします。

InstallPack アプリケーションが表示されます。

- 4 アプリケーションの処理を進め、プラットフォーム固有のドライバをインストールするためのオプションを選択します。

追加ソフトウェアをインストールするためのオプションが選択されていないことを確認します。

注-追加ソフトウェアオプションを使用して、サーバーシステムツールをインストールできます。

- 5 「次へ」をクリックして、**Install Pack** アプリケーションの手順を進め、ツールのインストールプロセスを終了します。

索引

B

BIOS

- UEFI モード, 21
- 最適なデフォルト値のロード
 - Windows, 20-21
- ブートモード、設定 (Windows), 21
- レガシーモード, 21

E

Enterprise Manager, 10

O

Oracle ILOM

- リモートコンソールアプリケーション
 - Windows, 16-20

Oracle System Assistant

- OS インストール (Windows), 23-26
 - Windows, 12
- OS のインストール, Windows, 9-13

P

Preboot Execution Environment (PXE), 37-38

U

Unified Extensible Firmware Interface (UEFI) BIOS

- ブートモード
 - Windows, 21

W

- Windows, Windows 展開サービス (WDS), 12
- Windows OS のインストール, 方法, 11

い

インストール

- PXE 方法 (Windows), 37-38
- 手動の方法 (Windows), 31-37
- ツールとドライバ
 - Windows, 38
- 補助付き OS インストール (Windows), 23-26
- リモートセットアップ (Windows), 16-20
- ローカルセットアップ (Windows), 15-16

お

オペレーティングシステム

- サポートされているバージョン
 - Windows, 9

こ

更新ト, 最新情報 (Windows), 10

さ

最適なデフォルト値

ロード

Windows, 20-21

サポート対象

オペレーティングシステム

Windows, 9

し

手動 OS インストール, Windows, 12

手動インストール

Windows, 26-31, 31-37

せ

設定

BIOS ブートモード

Windows, 21

そ

ソフトウェアとハードウェア

情報

Windows, 10

つ

ツールとドライバ

インストール

Windows, 38

と

ドキュメント

最新の取得

Windows, 10

ドライバ

インストール, 40-41

更新, 40-41

は

ハードウェアとソフトウェア

情報

Windows, 10

ふ

ファームウェア

更新情報

Windows, 10

複数サーバー OS インストールオプション, 10

プロダクトノートドキュメント, Windows, 10

ほ

補助付き OS インストール

Windows, 12, 23-26

り

リモートインストール, セットアップ

(Windows), 16-20

れ

レガシー BIOS

ブートモード

Windows, 21

ろ

ローカルインストール, セットアップ
(Windows), 15-16

